

2008年度 原子核三者若手夏の学校 素粒子論パート活動報告

素粒子論パート事務局校 金沢大学
文責：井上 北斗

1 2008年度素粒子論パート役職校紹介

今年度の素粒子論パート役職校は以下の通りです。

- 事務局校：金沢大学
- 準備校 (兼・講義録作成校)：大阪市立大学 (場の理論)
- 講義録作成校：京都大学 (弦理論)、神戸大学 (現象論)

2 予算および決算報告

2008年度原子核三者若手夏の学校における、素粒子論パートの予算および使用状況について報告いたします。

2.1 収入の部

夏の学校における素粒子論パートの諸費用は、三者役職校や他パート役職校と同様に、『夏の学校参加費』、『外部団体からの援助』、『前年度繰越金』からなる『原子核三者若手夏の学校予算』により賄われています。2007年10月に YONUPA-ML 上にて開催された『2007年度原子核三者若手 秋の三者総会』において、以下のように素粒子論パート各役職校の予算が承認されています [yonupa-ml 1326]。

- 素粒子論パート事務局校 (金沢大学)

申請項目	申請額	小計
なし	¥0-	¥0-
合計		¥0-

- 素粒子論パート準備校 (大阪市立大学)

申請項目	申請額	小計
録音関係費	¥13,000-	¥13,000-
機材送料	¥6,000-	¥6,000-
消耗品代	¥2,000-	¥2,000-
研究会費	¥2,000-	¥2,000-
合計		¥23,000-

2.2 支出の部

決算については確定し次第、yonupa-ml 上にて報告いたします。

3 議案

レビュー発表の促進と研究交流会の導入 (提案者：匿名希望)

夏の学校素粒子論パートには、素粒子論を専攻する全国の大学院生、主に M1 が集まります。同学年の仲間とともに講義を受け、また懇談し、人間的な付き合いを深めることは、大いに意義のあることだと思います。ただ、物理について互いに議論する機会はあまりありません。せっかく同じ道を志す若者が全国から集まっているのだから、それぞれ自分が興味のあることや考えていることを話すことで、意識を高めあうことができたら、夏の学校はより有意義になると思います。

そこで、議論のきっかけになるようなプログラムを 2 つ提案します。

1. レビュー発表

これはすでに導入されていますが、まだ発表者が少ないので、引き続き発表を促進することを提案します。特に、参加者の大半を占める M1 による発表がまだまだ少ないです。まだ研究に入っていないくてもレビュー発表なら可能だし、聴衆も発表者が同じ M1 ならより議論を交わしやすいでしょう。もちろん、M2 以上の発表も時間の許す限り盛り込めばいいと思います。

2. 研究交流会

これは、だいたい同じ方向の興味を持った 5-6 人のグループに分かれて、その中で一人ずつ興味のあることを話していくというものです。上記の発表とは異なり、全員の前で話すわけではないので、その分壁が低くて参加しやすく、また、打ち解けた議論ができると思います。研究交流会の時間は、どれかの食事の時間を使うか、または研究会 1-3 のうちのどれかを使えばいいでしょう。研究交流会については、下記に挙げる、他分野の夏の学校の例が参考になります。

研究交流会は、自分の研究の面白さや自分の興味のある分野を 皆に伝えて理解し合う場です！

● 紹介形式

- 自分の研究や興味を持っている分野について、皆にその面白さを紹介して下さい。
- A4 一枚程度にまとめて下さい。両面を使って頂いて構いません。
- 紹介用紙のコピーを 10 枚程度、各自で用意をお願いします。
- 「わかりやすく」かつ「簡潔」に、5 分程度で相手に概要を伝えられるように用意して下さい。
- より理解し易くするため、写真や図を活用して下さい。

● 紹介のポイント

- 参加者には学部生や完全に分野外の人もいるので、少し断定や近似になる形でもかまわないので、なるべく基礎から分かりやすくしてください。
- まだ自分の研究を行っていない学部生などは、自分が興味のある分野についてなど発表して下さい。その際、用紙は手書きでも結構です。

- 質疑応答の時間があるので、グループ内で積極的に質問や意見などを発言してください。様々な分野の人がいるので有意義な議論ができると思います。
- 自分が面白いと思っている理由を一言付けて下さい。皆に面白さを伝える上で、重要なポイントです。

(生命科学夏の学校のウェブページ <http://www.seikawakate.org/content/view/135/193/>より引用。分野は素粒子と生物でかけ離れていますが、かなり多くの部分が転用できると思います。)

最後に、自分が参加しているんだという実感を、より多くの参加者が持てるような夏の学校であってほしいです。

4 次年度以降の素粒子論パート役職校

4.1 2009 年度素粒子論パート役職校紹介

2009 年度の素粒子論パート役職校は以下の通りです。

- 事務局校：新潟大学
- 準備校 (兼・講義録作成校)：北海道大学 (場の理論)
- 講義録作成校：お茶の水女子大学 (現象論)、総合研究大学院大学 (弦理論)

注

- 本パート総会終了後、2008 年度の各役職校は 2009 年度の各役職校と仕事内容の引継ぎを行って下さい。夏の学校終了後には、2009 年度夏の学校の予算申請をする必要があるため、不明な点のないようにしておいて下さい。
- 2009 年度各役職校は新たにメーリングリストに登録されます。引継ぎの際、2009 年度役職校の責任者の連絡先を確認して下さい。

4.2 2010 年度素粒子論パート役職校について

素粒子論パート事務局校は 2 年後の素粒子論パート役職校を選定することになっています。今年度は金沢大学が 2010 年度のパート役職校の選定を行います。なお、選定は以下の基準で行なう予定です。依頼がきた場合にはご協力をお願いします。

- 準備校はいずれか一つの講義録作成校を兼ねる
- 10 人前後の院生が在籍している研究室 (注：事務局校はこの限りではない)
- 2009 年度の素粒子論パート役職校を担当していない研究室
- 2010 年度の三者の役職校を担当していない研究室

補足：過去の素粒子論パート役職校一覧

2001年度

- ・事務局校：名古屋大
- ・準備校 (兼・講義録作成校)：金沢大 (場の理論)
- ・講義録作成校：茨城大 (現象論)、大阪大 (弦理論)

2002年度

- ・事務局校：千葉大
- ・準備校 (兼・講義録作成校)：北海道大 (現象論)
- ・講義録作成校：お茶の水女子大 (場の理論)、筑波大 (弦理論)

2003年度

- ・事務局校：茨城大
- ・準備校 (兼・講義録作成校)：京都大 (弦理論)
- ・講義録作成校：九州大 (現象論)、東工大 (場の理論)

2004年度

- ・事務局校：神戸大
- ・準備校 (兼・講義録作成校)：広島大 (現象論)
- ・講義録作成校：名古屋大 (場の理論)、東京大 (弦理論)

2005年度

- ・事務局校：茨城大
- ・準備校 (兼・講義録作成校)：新潟大 (場の理論)
- ・講義録作成校：筑波大 (弦理論)、東京都立大 (現象論)

2006年度

- ・事務局校：埼玉大
- ・準備校 (兼・講義録作成校)：金沢大 (現象論)
- ・講義録作成校：東京大 (弦理論)、北海道大 (場の理論)

2007年度

- ・事務局校：大阪大
- ・準備校 (兼・講義録作成校)：東京工業大 (場の理論)
- ・講義録作成校：九州大 (現象論)、名古屋大 (弦理論)

2008年度

- ・事務局校：金沢大
- ・準備校 (兼・講義録作成校)：大阪大 (場の理論)
- ・講義録作成校：京都大 (弦理論)、神戸大 (現象論)